

## ■福島県飯舘村の震災・原発被災の現状

災害対策本部長（飯舘村長） 菅野典雄

### （1）放射線物質検出にかかる新たな報道

#### ①30km 圏の問題について

- ・内閣府原子力安全委員会より「緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム（SPEEDI）」によるシミュレーション結果、米国エネルギー省による「放射線量空中測定を元にした推計結果」の報道によると、大部分が30km 圏外にある本村への影響が多い模様。
- ・放射線の値が高いことを裏付けるデータである。こうした状況への村民の不安を解消するために明日（25日）講演会を開催。
  - －「福島原発事故による放射線健康リスクについて」 長崎大学大学院： 高村昇教授

#### ②植物の放射性物質の測定結果

- ・雑草と野菜の放射性物質の測定結果が、文科省から発表された模様。
  - －雑草の葉：ヨウ素 254 万 Bq/kg、セシウム 265 万 Bq/kg
  - －野菜：ヨウ素 1 万 7 千 Bq/kg、セシウム 500Bq/kg
- ・本調査結果に関しても、国から村に対する調査報告はなくサンプルの採取ポイント、サンプルの種類等は不明な状況。

### （2）放射線物質検出にかかる報道への対応

#### ①土壌からの放射線物質検出にかかる報道への対応

- ・全員協議会では「作物の作付け」に関する議題が用意されていたが、昨日の報道を受け、土壌に関する議論が中心になった。
- ・文科省（国）の土壌調査結果報道を受けて、下記4点を質問、要望を“県”に提出した。回答は、明日の夕刻までに得られるようお願いしている。
  - ①サンプルはどこで採取したものか？
  - ②今後の農業方針を立てるためにも、村内全域にわたる土壌調査の実施の可能性はあるのか？
  - ③国、東電はテレビで農家に対する補償をほのめかしているが、具体的な手順、方法はどのようなものか？
  - ④セシウム 137 の農畜産物に対する影響、食した場合の体内被曝等の影響はあるのか？

#### ②野菜からの放射性物質が検出されたことへの追加調査

- ・村内産ブロッコリーから放射性物質が検出されたとの報道（3/21）に関し、県から情報を得た。
- ・調査は国から県に指示があったもので、二枚橋地内で採取されたサンプル。但し、ブロッコリーは非出荷時であり、圃場脇に生えていたモノを採取したものである。

### （2）放射性物質の状況

#### ①大気中

- ・役場周辺モニタリングポスト（地上 1m）： 12.0  $\mu$  Sv（18:00 現在）

## ②原乳

- ・2回目(3/22)調査結果を、県から報告を受ける。
  - ーヨウ素：1,000Bq/リットル(前回20日、5,200 Bq/リットル)
  - ーセシウム134： 25 Bq/リットル
  - ーセシウム137： 28 Bq/リットル(前回20日、セシウム210 Bq/リットル)

## (3) 村民生活について

### ①飲料水について

- ・帰村者に対する水の配付量が増えている。
- ・25日以降、新たに水が100t到着予定であるが、詳細な日時は未定な段階。

### ②ガソリンについて

- ・昨日、給油を断った村民に対する給油は、本日完了した。
- ・明日(午前)も割り当ての給油は実施予定。

### ③教育機関の再開に向けて

- ・幼稚園、学校等の再開見通しにかかる問い合わせが増えている。こうした状況を受けて児童、生徒、教員の所在確認を行い、完了した。
  - ー現在673名中、544名が村外にいる。
- ・再開については、村長と教育委員会で協議を進める。

【文中に掲載されている地名等】

